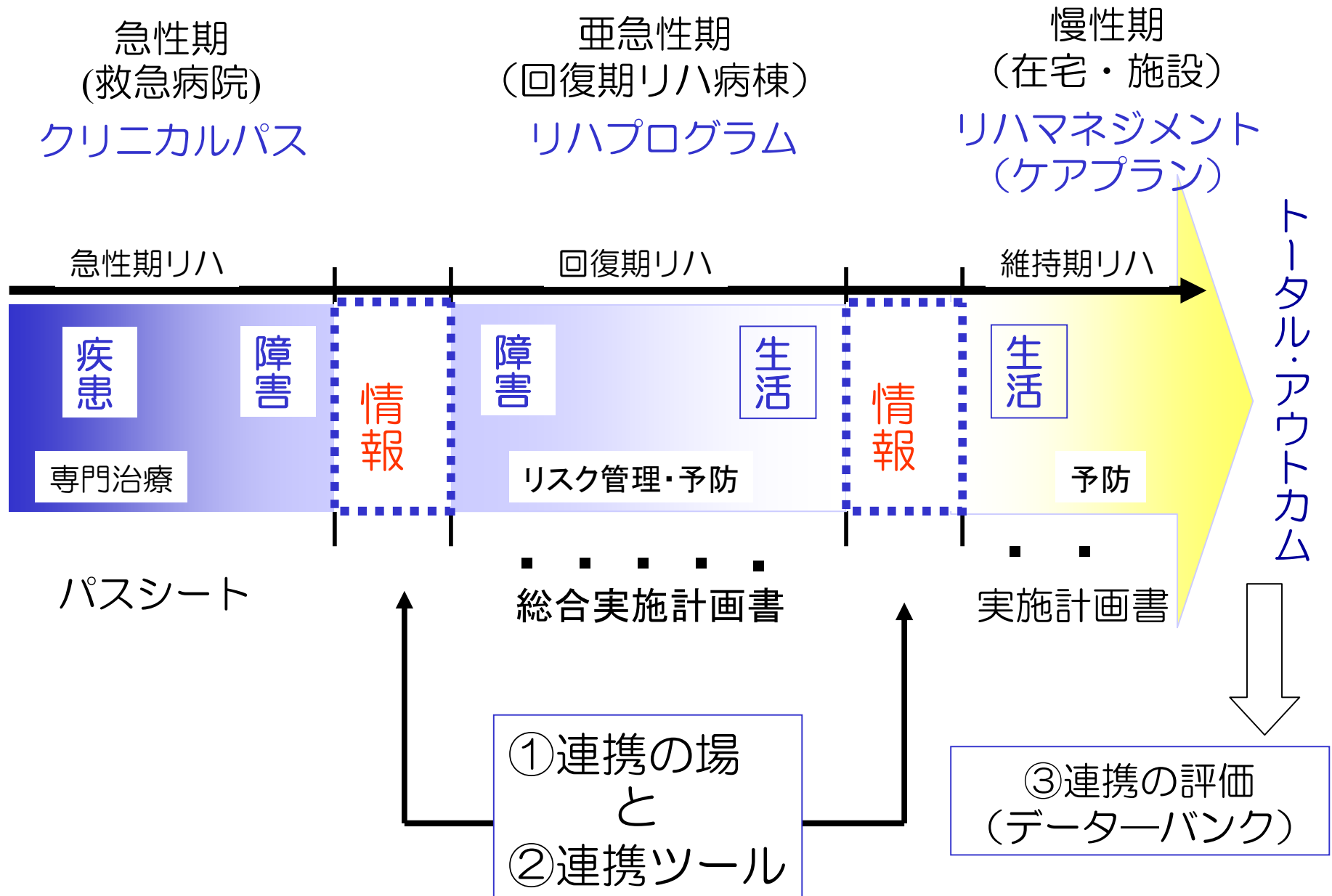


地域医療連携の視点



地域連携の工夫

①連携の場

- ・急性期・回復期・維持期のステージを越えた場
- ・多職種が集う場
- ・地域を支えるための場（保健所などの行政も参加）
- ・既存のネットワークなどが集う場

②連携のツール

- ・家族、患者が診療プロセスが理解できるツール
- ・適切な患者情報の交換ツール
- ・連携の場で開発・共有

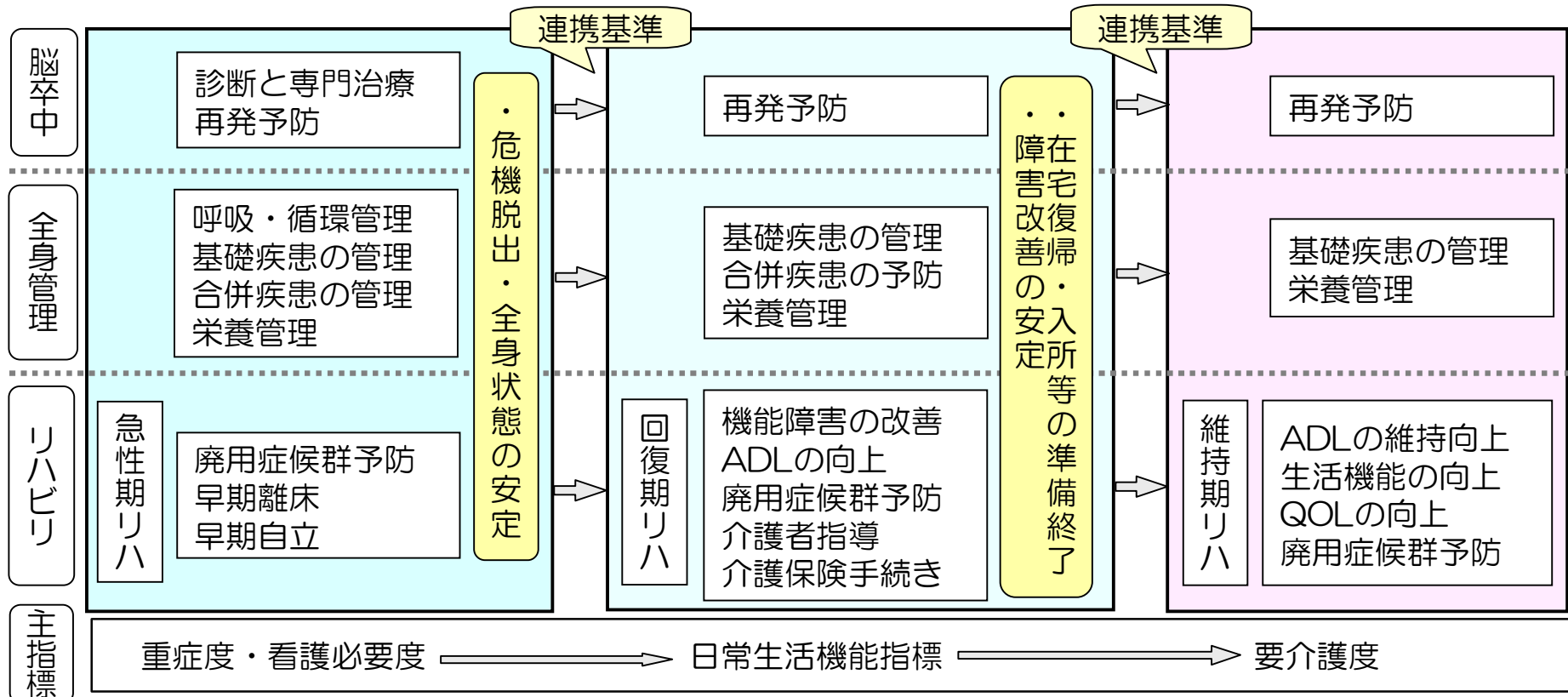
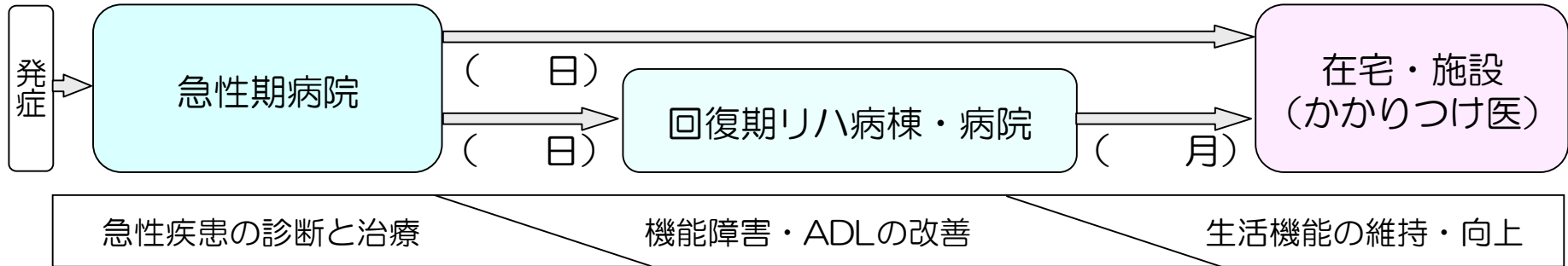
③連携の評価

- ・地域医療の質向上が目的
- ・地区毎のデータバンク構築
- ・評価の指標をみんなで決める
- ・連携の場で議論・検討
- ・分析結果を可能な限り書面で残す

脳卒中地域連携診療計画

全国回復期リハ病棟連絡協議会

説明者(主治医)署名	患者・家族署名	説明日
<input type="checkbox"/> 脳梗塞 <input type="checkbox"/> 脳出血 <input type="checkbox"/> くも膜下出血	病状：	



脳卒中情報用紙

診療情報用紙(エクセル)は
ホームページのトップ画面
からダウンロードできます。

<参考資料>

入院時 Barthel Index と入院期間について

(436病院 (568病棟) の平成19年9月,10月の退院患者16,366名のデータより)

対象：発症後2カ月以内に回復期リハ病棟に入院した脳卒中患者 7,589例

内訳：

脳血管疾患で算定上限日数150日: 5,461例

高次機能訓練障害を伴った重症脳血管障害で算定上限日数180日: 2,128例

男女比： ♂4,287 ♀3,302

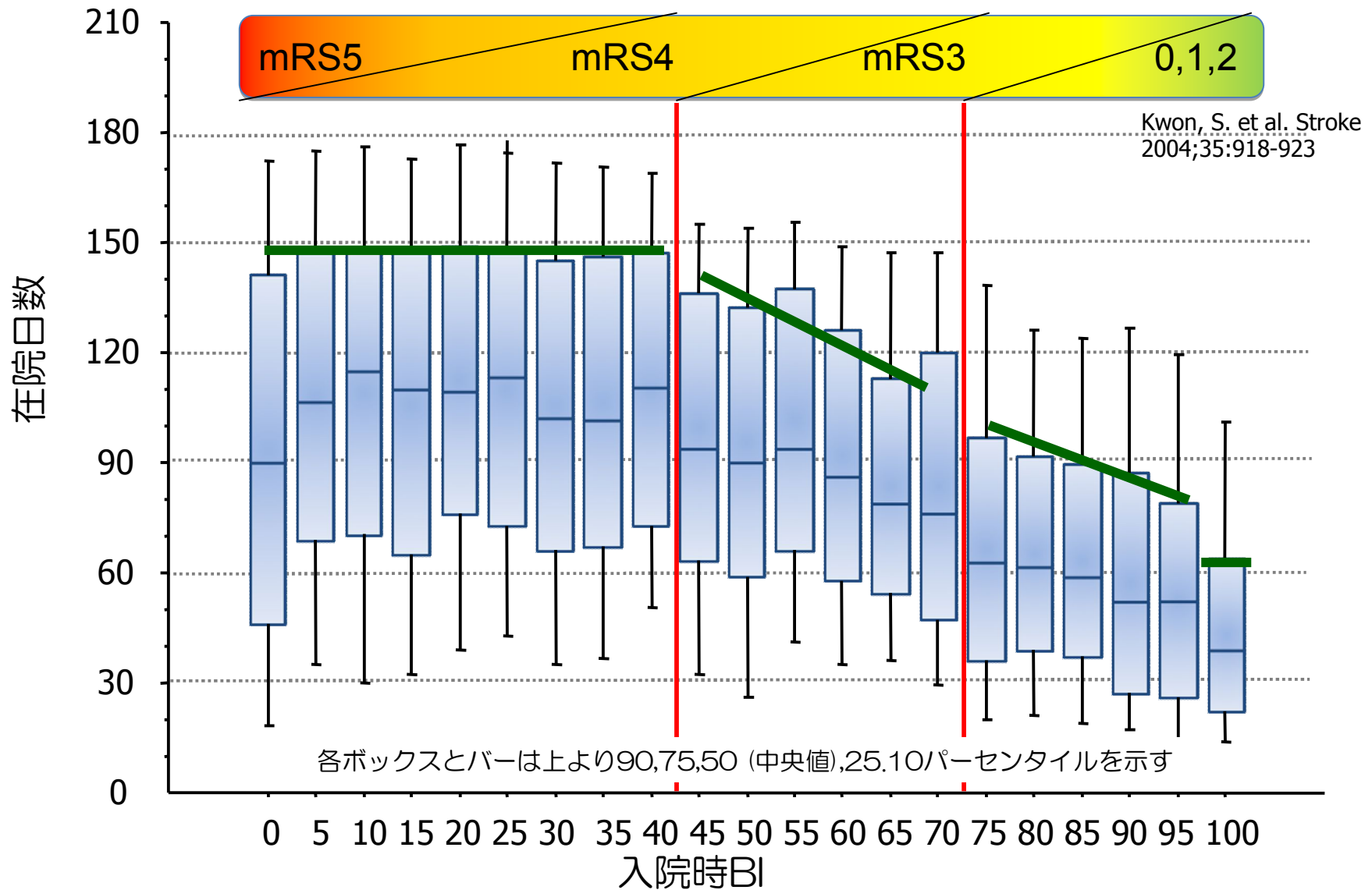
平均年齢： 71.2±12.4才(中央値73.0)

発症から入院までの日数 32.7±15.1日 (中央値31.0)

平均在院日数 89.0±50.4日(中央値85.0)

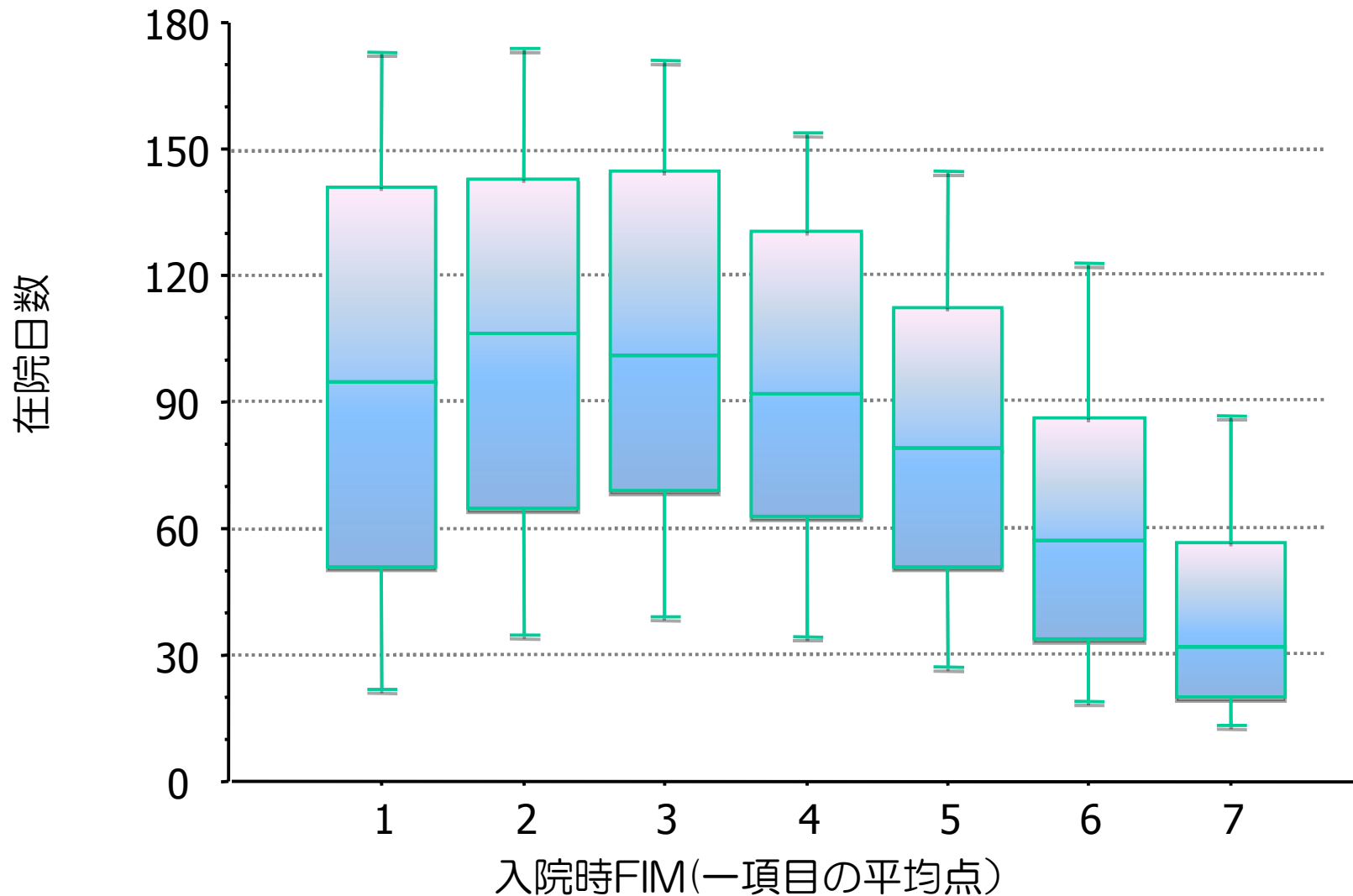
全国回復期リハ病棟連絡協議会実態調査委員会

入院時BIと在院日数の関係～箱ひげ図



75パーセンタイル（75%の患者が退院する日数）では、入院時BI 40以下：150日、45～70：140～120日、75～95：100～80日、100：60日

入院時FIMと在院日数の関係～箱ひげ図



FIMの一項目あたりの四捨五入平均(総FIM/7) 1~7で分類

G1 (18~26), G2 (27~44), G3 (45~62), G4 (63~80), G5 (81~98), G6 (99~116), G7 (117~126)

各ボックスとバーは上より90,75,50 (中央値),25.10パーセンタイルを示す

使用方法(案)

「1」 脳卒中地域連携診療計画（オーバービュー）

①使用目的

家族・患者が今後どのように治療を受けていくかを解りやすく説明する為に用いるものである

②主に急性期（救急）病院（脳卒中専門病院）で入院当初に用いて説明する。

③詳細な治療内容などについて記載していないため、必要な場合には急性期病院で工夫する。

④但し、その場合には説明した内容を添付して回復期に情報として伝える必要がある

⑤回復期・維持期も患者・家族に説明する場合には最初にこれを用いる

「2」 脳卒中診療情報用紙（連携シート）

①内容は回復期・維持期で必要と思われる情報項目になっている

②従来の診療情報用紙に変わるものとした

③運用上詳細すぎる場合には工夫して簡略化を図る

④運用上、全て完璧な記載を求めない

「3」 資料：mRS,BIと回復期リハ病棟入院期間との関係データー

必要に応じてこの資料を基に患者・家族に説明することを推奨